



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2023年01月30日 第1103号「週刊五十嵐レポート」

今年倒産が増える！？

1月9日付日経新聞、「企業倒産、3年ぶり増加」という記事。2022年の日本国内の企業倒産件数が3年ぶりに前年度を上回った。原燃料価格が高騰し、資金繰りが行き詰まった。21年が「ゼロゼロ融資」の恩恵で低水準だった反動に加え、物価高や人手不足は厳しさを増し23年は中小企業などの倒産が増えると予想。

ある小さな会社の社長の言葉、「確かに資金繰りは大事。今月の支払い、どうしようかと思うと、仕事が手につかなくなってしまう。資金を事前に準備したり、資金に余裕があって支払いに心配しないことが本当に大事。そうしないと仕事に集中できない。

現在は利益を継続的に出すことができ、自己資本の蓄積ができるようになった。以前は利益が出ると、節税はどうしようかとかやっていたけれど、それは(経営の)本質ではないなと思って、税金は税金で払って、余計なことは考えず、顧客作りに力を入れる。そちらに時間と経営資源を集中させることを考えるようになった」。

またある社長は、「いろんな経営の本を読むと、在庫を多く持つのは良くない。デッドストックになると説明される。昔、自分もそう思っていた。しかしコロナ禍において状況がガラッと変わった。商品がない。届かない。早め早めの在庫を持つことが重要。在庫がないためにお客さんに心配をかけさせ、おまけに売上が立たない。そうならないために、必要な商品は多めに在庫を持つようになった」。

(デッドストックは、一見儲かりそうな商品が出てくると、売れるかどうか確認せず、欲につられて仕入れ、結局顧客の支持を得られず、売れ残ったものが多い)。

顧客が必要としている商品が在庫にない、顧客はいるのにサービスを提供する人材がいない。仕入価格や間接経費が値上がったが、価格に転嫁できない。このような会社が厳しくなっていく。日々先手先手で進めていこう。

ちょっと
気になる出来事

1月25日付朝日新聞、「EV遅れ戦略見直し」という記事。トヨタは、EV(電気自動車)の作り方を根本的に改める。ガソリン車やハイブリッド車向けの延長線上だったのを脱し、EV専用の基本設計とする。

テスラが使うEV専用の車体に比べるとコスト高になっていた。このままではEVで十分な利益を出せず、テスラにも対抗できないと判断。トヨタとしては世界が想定以上にEVが急速に普及していることが影響。EVの世界販売シェアでは首位テスラ、2位中国のBYD、上位を米中欧で占め、トヨタは上位10位に入っていない。

トヨタは、HV、EV、そして水素で走るFCVの開発を「全方位」で進めてきた。一方、テスラ、BYDはEVに経営資源を集中。トヨタは全方位のため、力が分散する。EVに関しては分が悪いのは必然。

小さな会社はトヨタのやり方では空中分解する。専門として経営資源を一つに絞る。それが得策。

トヨタは、社長の交代を発表した。トヨタも生き残りを賭けている。



一口メモ
知識

器量と度量

器量とは、高い地位に相応(ふさわ)しい対処能力であり、度量とは、自分に対する批判でも聞くべきものは受け入れるという心の広さである。

陰陽に分けるとすれば、器量は陽の力で、度量は陰の力になる。

現代では能力や実績主義になり、会社組織のリーダーは器量型が多いといわれる。

もちろん器量は大切である。しかし、リーダーの真価が問われるのは、人の能力を活かし、人を育てる度量である。リーダーは、度量という陰の力を育てることを忘れてはならない。

「易経一日一言」(致知出版/竹村亜希子)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5
TEL03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

